

75%未満の狭心症では $0.38 \pm 0.09\%$, %D.S89~75%の狭心症では $0.33 \pm 0.08\%$, %D.S 90~99%の症例では 0.22 ± 0.11 であったが ST 上昇群でのそれは負の値を示す例が多く WR は著明な低下を示した。また再分布像は初期像に比し, Tl 欠損は著明に改善した。PTCA 施行した症例では PTCA 後に WR の著明な改善が示された。

20. 長期的観察における PTCA の虚血改善様式に関する検討

秋元奈保子	塚原 玲子	上嶋権兵衛 (東邦大・二内)
山崎 純一	大沢 秀文	飯田美保子
岡本 淳	森下 健	(東邦大・一内)

PTCA 成功例に対し, PTCA 前後に運動負荷 ^{201}Tl

心筋 SPECT を施行し経時的に虚血心筋改善様式について検討した。症例は陳旧性心筋梗塞 33 例で, PTCA 前と PTCA 10 日後および遠隔期に心筋 SPECT を施行した。

非再狭窄群 10 例中 7 例では, PTCA 後の SPECT 像に改善が示され再分布も残さなかった。4 例は遠隔期にさらに改善がみられた。一方再狭窄群 23 例中 15 例は, 1st PTCA 約 10 日後に改善が示されるものの 3 例で再分布が残存した。そのうち 4 例は 2nd PTCA 後さらに改善を示した。また 1st PTCA 後には改善のなかった 8 例中 3 例は 2nd PTCA 後には改善がみられた。

また非再狭窄群, 再狭窄群それぞれ遠隔期に心筋灌流に改善の示された症例とそうでない症例にわけ PTCA 前後の %diameter stenosis を比較したが, 有意差はなかった。遠隔期または 2nd PTCA 後にさらに心筋灌流の改善が示されかかる症例では hibernating myocardium の存在が示唆された。